

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）復興支援 活動報告書

被災支援ボランティア団体
「おたがいさまプロジェクト」 大竹 修

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」の助成事業
復興支援ボランティア・ツアーVol.13「神戸から真備へ」が終了しましたので、ご報告致します。

記

活動日時	2019年8月24日（土） 6時50分～19時
活動場所	岡山県倉敷市真備町
ボランティア数	20名（内初参加14人,学生13人）
活動内容	1.子ども支援 2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会） 3.写真洗浄

1.子ども支援

場所・時間	①みその仮設住宅	②岡田仮設住宅	③市場仮設住宅
作業時間	1.5時間（10時30分～12時）	2時間（13時～15時）	2時間（13時～15時）
ボランティア数	10名	10名	10名
受益対象者数	3名	10名	5名
作業内容	レクリエーション等		
詳細	仮設住宅の集会所にて子供向けレクリエーションを行った。 <活動の成果> 1.ストレスを発散し、子供たちの不安や悲しみを取り除き、生きる強さに昇華させることができた。 2.子どもたちが地域住民と触れ合うことで社会性を伸ばすことが出来た。 3.ゲームやお菓子タイムの中でルールや片付けを行い、社会のルールや道徳心を育てる事が出来た。 4.日頃遊ぶ場所が少ない子どもたちのために楽しみを与えることが出来た。 		

詳細・情報共有等	【世代間の交流】 大人と子供が交流をし、一緒に楽しめるようなイベントを企画。子供達は親以外の大人と接することで社会を学ぶ事が出来る。 地域活性や、子供達の情操教育支援のためにも、今後も積極的に行っていく。 
----------	---

2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会）

場所・時間	①みその仮設住宅	②岡田仮設住宅	③市場仮設住宅
作業時間・ボランティア数は1と同様			
受益対象者数	約20名	約20名	約40名
支援・協力団体	石橋様（みその仮設仲介、物資提供）、チョコ様（告知作業）		
作業内容	見守り活動、サロン活動（足湯・お茶会）		
詳細	①見守り訪問活動 1軒1軒お伺いし、困りごと等の聞き込み調査を行った。 <活動の成果> 1.傾聴を行う事で、悲しみや怒りに寄り添い、精神的安定や寂しさからの解放、孤独死や引きこもりなどの抑制活動を行った。 2.困りごとや頼み事などを支援団体「災害支援ネットワークおかやま」「まびシェア」や倉敷市などに情報提供し、生活の現状や改善に役立てることが出来た。   （一軒ずつ訪問活動を行う） （小さな声も漏らさないよう活動する） ②サロン活動（足湯・お茶会） 被災者のストレス発散や、コミュニティの場として足湯・お茶会を行った。 <活動の成果> 1.被災者同士の良好なコミュニティ形成のサポートが出来た。 2.足湯でリラックスしながら、楽しんでもらい、被災者の悲しみを受け止め、喜びには分かち合うなど、心から寄り添うことで、ストレスの発散等に役立てた。 3.子どもイベントを同箇所で行い、全世代が楽しみ、コミュニティ形成の一助になった。 4.聞き取りした内容はHP等、他団体に報告するなどシェアを行なった。 		

【子どもたちという地域の宝と一緒に。】

子どもたちと大人が一緒にいられる場所を提供。特に岡田仮設は地域の受け入れが大変良く、子供達が集会所に入ってきた瞬間に、ご年配方に笑顔が灯ってくる。

子供達と大人と一緒に笑いあえる空間は地域コミュニティとしては理想なので、今後も別の仮設所でも積極的に行いたい。



【情報共有】

1. 岡田仮設住宅（6回目）

①世話人の宮本さんから「知人の今井さんというご年配の女性の孫が、トラウマで、リフォームした家に帰りたいが、今も仮設住宅に避難していて毎日会いに行っている。なにか心のケアが出来るか？」と初めて伺った。日本赤十字とは関わっているそうだが、念の為、まびシェアの永田さんに情報提供し、現状把握の依頼をした。

2. 市場仮設住宅（12回目）

①「一人だと」人に話す機会がないのでこういうところに来ると他人と話せて嬉しい。（仮設に一人で住まいの方）

3. みその仮設住宅（2回目）

①「普段は遊ぶ場がないから家でゲームしかせず、視力が落ちている。」（親子連れ参加者）

4. 全体として

①暑い日が続くせいか体調の悪い方が多かった。（伺っただけで全体で8件）

3.写真洗浄

場所	元田集会所
作業時間	約2.5時間（9時30分～12時）
ボランティア数	10名
受益対象者数	約20名
作業内容	写真洗浄
支援・協力団体	「真備写真洗浄@あらいぐま岡山」様（場所提供・作業指示）

詳細・情報共有等

※写真洗浄とは

自然災害で汚れた写真を1枚ずつ丁寧に汚れを落とすボランティア活動。
 泥で汚れた写真はバクテリアが周りから侵食して白くなっていく。侵攻をとめるために水・エタノール水溶液で洗浄しなくてはならない。
 簡単な作業ではあるが、被災者の心に寄り添える大切な活動で、初心者には向いていると言える。

<活動の成果>

- 1.被災者の思い出を守り、生きる喜びを与えることができた。
- 2.バスを利用して大人数での効率の良い活動が出来た。
- 3.活動中や休憩時間などに、ボランティア同士の交流を通して、防災やボランティアの意義を感じてもらった。

【現地のボランティアの方との交流】

作業時に同席した現地ボランティアの方に、当時の話や現在の状況などを説明していただく機会があり、初参加や学生たちにとって有意義な時間となった。
 これからも無機質な活動ではない心の通ったボランティアを目指したい。



【所感】

西日本豪雨から1年が経ち、7月と同じく真備支所前の石碑にて、黙祷から始める活動となりました。

北九州豪雨が先日あったように、今年の天候はまだ予測を許さない状況が続きます。今後も引き続き防災などの情報発信を行いながら、心にキズを負った方々への慰問活動を続けて参りたいと思います。



<イベントが激減している仮設住宅>

今回は岡田、みその、市場の3箇所に伺いました。
 仮設住宅でのイベントが減り続けている中、先日の大雨などで心が不安定になっている方に、どれだけ心に寄り添えるかが重要となってきております。

みその仮設で以前お会いした被災者の方は、足が悪いということで集会所に行けなかったため、今回はボランティア2名でお部屋にお邪魔してお話を伺うことができました。被災者の方もとても喜んで喜んでいただき、心内を話していただきました。これからは被災者一人一人の事を考え、最後まで喜んで頂けるようなコンテンツを提供していきたいと思っています。



<現地の方と一緒に活動していく>

おたがいさまプロジェクトは積極的に現地の支援団体や、時には被災地の方と一緒にイベントづくりを行っております。ただ与えるだけではなくともにイベント作りを分かち合い楽しみ笑い合う。

時に、支援され続ける関係では恐縮する場合があります。今後も「おたがいさまです」と言い合えるような関係性を目指していきたいと思っております。



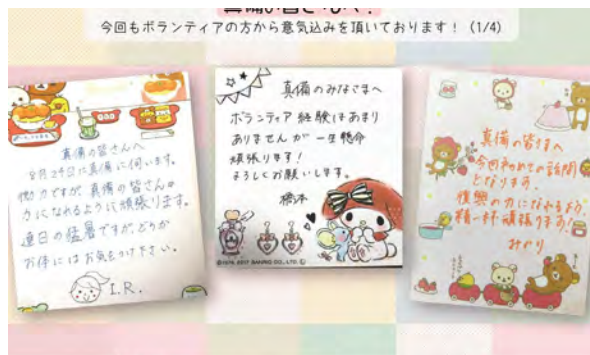
月1回と少ないツアー活動ですが、これからも心に寄り添い、今以上に良好な地域になるように、遠くではありませんがSNS等うまく活用し、支援団体や被災者の方と信頼関係を築き上げながら活動していきたいと思っております。

<一人でも多くの方にボランティアや防災の意義を>

今回も約半数が未経験、学生参加という理想的な形になり、復興の一助と共に、被災地の現状、ボランティア・防災の意義を感じてもらえる、十分実りのある活動となりました。

ただ活動するだけではなく、心ある人達を一人でも増やし、今後の世界を明るく照らす為にも活動して参ります。

(ボランティアが真備に向けた書いたメッセージ)



復興支援ボランティアツアー Vol.13

最後にこのような機会を頂けた中央共同募金会様、ご協力頂いたあらいぐま岡山様、まびHouse様、つむぎママ様、チョコ様、倉敷市役所、倉敷市社会福祉協議会。そしてボランティアの皆様に、心より感謝をお伝えしたいと思います。

本当に有難うございました。
おたがいさまプロジェクト代表 大竹

【今後の活動について】

9月15日・・・神戸で出来る復興支援
(写真洗浄会)

9月22日・・・復興支援ボランティアツアーVol.14



【傾聴アンケート9件】

(みその仮設住宅：3件)

性別： 男・ <u>女</u>	何歳（年代）： 60	名前・あだ名（わかれば）
-----------------	------------	--------------

お話内容

- ・仮設から出ていく（引越）の準備が2月
- ・出ていく人も多いので、つながりもうすくなる、つながりがない。

性別： 男・ <u>女</u>	何歳（年代）： 60代前半	名前・あだ名（わかれば）
-----------------	---------------	--------------

お話内容

犬が犬小屋ごと流されているのを見しばらくは夢に出てきた。同じように夢で雨で被害に遭っても個人的な事情やとらえ方は人それぞれ。「がんばろう」という空気を出されても、がんばれない人もいる。被災後、娘夫婦の家にいたが、気を使って精神的にしんどかった。今は元気で、女子会も開いている。10月に仮設

感想・備考

も出る予定。人がいなくなるのはさみしいが、家が戻るというのは良いことでもあると思う。

性別： 男・ <u>女</u>	何歳（年代）： 60代	名前・あだ名（わかれば）
-----------------	-------------	--------------

お話内容

被災当時、自分はすぐ避難してきたが、近くの家の犬と犬小屋が流されてしまったのを今も忘れられない。被災し家に帰ったとき、独特の泥のにおいも忘れられない。

(市場仮設住宅：1件)

性別： <u>男</u> ・女	何歳（年代）：	名前・あだ名（わかれば）
-----------------	---------	--------------

お話内容

注射をして右肩が痛い、ということ

滋賀

雪が2メートルほど積もって大変だったという話

(岡田仮設住宅：3件)

性別： 男・ <u>女</u>	何歳（年代）： 60.	名前・あだ名（わかれば）
お話内容		
仮設住宅の居期間は2年間であるので、その後の居住について、大変不安がある。市営住宅の建設計画があるから、と2ヶ月間にわたってスケジュールにわたっている。どうすればよいのか。		

性別： 男・ <u>女</u>	何歳（年代）： 60代	名前・あだ名（わかれば）
お話内容		
台風10号の話になって、大丈夫でしたかと尋ねると、 今回の台風は雨が強く12か所の700mmだったという一方で、 もう大雨はイヤだとしきりに言っておられたのか印象的だった。		

お話内容		
女性（30代後半）災害後2週間ほどは車が壊れて、車が壊れたので大変だった。		
男性（60-70代）今は（妻が生前に亡くなって）一人で仮設に住んでいる。一人だと人に会ったり話したりする機会がないので、こうしてここに集ると他の人と話せるのがいい。		

【参加者からの感想17件（参加者数20名（回収率85%））】

20代/大学生(初参加)

足湯、子ども支援
 「同じ被災者の方でも、それぞれ境遇や感じ方が違う、
 という当然のことに初めて気づきました。これまでは報道
 を通じておぼろげな想像するしかなかったのですが、実際
 に現地に行き当事者の方とお話しすることで、自分だ
 けからという視点で考えられるようになりました。
 とても楽しく、実りある時間をありがとうございました。」



20代/社会人(初参加)

子ども支援
 訪問に行くも、温かく迎えてくださる方や私に参加すると
 下さる方がいて、その度に嬉しかったです。外出が難しく、来るこ
 とができない。という方にも何か困っていることはないか聞くなど
 何か話をすることが大切だと教わり、意識して取り組めました。
 何事もないのは普通の暮らしができていたのだと改めて思い、
 うまく話ができなかった人にも配慮していただき、またお会いしたい

20代/学生

お母の原籍 市川市 訪問
 小規模ながらも、たくさんの方とお話できました。
 時間があつたように感じました。
 「孫と似たような歳の子とお話できていいわ」と言って下さり、
 とても嬉しかったです。

10代/高校生(初参加)



写真洗浄で気が付いたことは被災者の思い出の写真と
 出来るだけ綺麗にしあげてお掛けして活動を行いました。
 写真洗浄をして思ったことは、写真を綺麗にするだけでも自分
 の心も浄化された気持ちになりました。慰問ボランティア
 で仮設住宅にお邪魔させて頂きました。子供達はす
 ぐ元気になってくれました。今回経験
 したことを胸に刻み、これからもお互いに手をとり合っていけたらいいなと
 思いや活動情報をメールにお送りしても宜しいでしょうか？ (YES) / NO 思は

10代/高校生(初参加)

写真洗浄・慰問ボランティア
 写真洗浄をした時は写真に丁寧にコメントしていただき、お礼
 してあげたのを見てお母さんの思いが伝わった写真たちを
 綺麗にするための大切な作業だと感じました。慰問ボラン
 ティアで子ども達は元気な様子で、コメントもたくさんもら
 った。思いを伝えることができて、こういうボランティアが
 地元のみんなにいい影響を思いました。



【参加者からの感想 17 件（参加者数 20 名（回収率 85%）】

10代/中学生(初参加)



寫真洗淨 → 因曲假誘設集會所

写真洗淨では、人の顔や体を残してついても余った部分だけを洗淨する作業が、とても難しかったです。しかし、その中で、被災された方の遺族が主になられた方への思いが伝わって来ました。また、周用施設では、初めて自分から積極的に話すことができませんでした。時間がたつにつれて、胡弓こべを開けようになり、自分がバを開くと、奥席の皆様も、安心して事を分けてくれるようになりました。自分の力で成長できたことは、とても嬉しく、実りのある物になりました。

20代/大学生(初参加)

写真洗浄、子ども支援(岡田仮設)

初めてのボランティアで、「被災地」「心のケア」というものを目の当たりにしました。これまで「心のケア」という言葉を聞くことはあっても、実際にその効果・役割を感じるのは初めてでした。自分たちが普段は被災地について考えることはなかなかないので、貴重な機会となりました。



20代/社会人



足湯 外茶金。

2月1日起以来の活動で、おかげで王のヌマコしかけ
着て、埋めこ以前よりヌマコに活動が行えたと
思っています。

今日は午後午後(おしり)入るまでずっと一冊に読んで
良の作のサブリダーとしてスタッフへの気配りや 全体への声掛け
をかけることもおもしろかった。いつもとちがうかんじで 解りやすそう

20代/大学生(初参加)

施設訪問

子ども達とたくさん遊んで遊んだら、心が
元気になるくらい元気でいてもたのしかった
地域全体のコミュニケーションがとれていて素晴らしい
ところだと思えます。また行ってみたいと強く
思っています。

